さくら

SAKURA

学校法人ノースアジア大学 広報

NORTH ASIA UNIVERSITY

2010.07 July No. 223

CONTENTS

02 / ノースアジア大：秋田市との提携
オープンキャンパス情報
03 / 看護福祉大：健康の駅事業 ほか
04 / 講演会レポート
明桜高校：レスリング部
05 / 幼稚園：論語劇、英語教室
06 / 平成21年度　決算概要
07 / 平成22年度　予算概要
シンポジウム
08 / インフォメーション

秋田市と観光に関する連携協定を締結

４月13日、秋田市との間で「観光に関する連携」協定を締結いたしました。

県内自治体との連携は、10件目になります。

協定締結後の挨拶で穂積市長は「秋田市も交流人口を増やすため、観光に力を入れることが市の成長戦略の一つだと認識しています。今回の提携でノースアジア大学が持つ知識と学生たちの感性、情報発信能力を生かして観光コンテンツの発展をお願いしたいと思います」と述べました。

続いて小泉理事長が、提携のお礼を述べた後に「本学に観光学科を開設し、３年目になります。これまでアジアの大学、観光企業や県内市町との連携協定を結んでまいりました。この連携によって学生、教職員にも研鑽の場が生まれたと思います。今後は、少しでも行政のご支援ができればと考えております」と述べました。

このあと、連携協定後の活動プログラムを紹介。そして、蔦谷晃大さん（観光学科２年）が「秋田市の観光行事に参加し、どのようにしたら観光客を呼び込めるのかを考えたいと思います」と連携協定後の活動への意欲を述べました。

また、４月29日、５月１日、５日の３日間、大森山動物園（秋田市）において、連携後初めての活動が行われ、観光学科の学生と教員とが協力し、動物園運営の参考とすることを目的に、来園者へのアンケートを実施しました。

実施した日は、雨風とも強く、アンケートを集めることが大変な日もありましたが、天気が回復した日には、来園した親子、家族の方々から数多くご回答いただきました。

この調査に参加した学生は「はじめは、声をかけるタイミングが合わず、お断りされることもありました。それでも、繰り返しアンケートのお願いをして数多くの回答いただくことができました」と話してくれました。

オープンキャンパス開催

ノースアジア大学・秋田栄養短期大学、秋田看護福祉大学各校のオープンキャンパスが行われます。各学部学科の教育支援体制や入試情報等を、受験生とその保護者、高校１・２年生、高校の教員の皆様へ、参加・体験を通じてご説明いたします。ご友人、ご家族をお誘いの上、お気軽にご参加ください。複数回数の参加も可能です。

ノースアジア大学・秋田栄養短期大学

７月31日㈯、８月21日㈯、10月２日㈯

秋田看護福祉大学

７月10日㈯、８月６日㈮、８月７日㈯、９月11日㈯、３月20日㈰　いずれも13：00～16：00

※10月23日㈯・24日㈰大学祭（逢星祭）開催時に、個別進学相談会を行います。

オープンキャンパス、進学説明会等に関するお問い合わせは

［ノースアジア大学・秋田栄養短期大学］入試広報課
TEL 018-836-1342　E-mail nyushi@nau.ac.jp

［秋田看護福祉大学］学務課入試係
TEL 0186-43-6510　E-mail wwwadm@well.ac.jp

大学での学習を生かし地域貢献

看護福祉大学

横手市が取り組む健康づくりネットワーク『健康の駅』事業との共同研究

高橋ゼミナールは、横手市が全国に先駆けて取り組む健康づくりネットワーク『健康の駅』事業（平成16年度後期より開始）に平成19年度から携わり、年度ごとにテーマを設定して共同研究に参加してきました。

このほど同市が取り組んできた５か年の事業の発展史をまとめる調査に協力し、取りまとめた内容を同市健康づくり担当課長会議と保健師全体研修会において報告を行いました。

調査は、平成22年２月の２日間、ゼミ生８人が現地で事業担当職員への質疑応答形式の聞き取りで実施。合わせて、健康の駅事業の各現場を視察し利用者の様子の観察や、事業成果や課題を報告する行政資料収集を行いました。

この共同研究に参加した秋本大介さん（福祉学科４年）は、「調査では、町内会館での健康体操活動の現場などを、２日間で数多く訪問しようと考えていましたので、事前の準備をしっかりと整えて、資料収集・取材などに臨みました。しかし、調査を終えて大学に戻ってからデータ分析や取材したノートから文章に起こそうとした時、データの取り忘れや聞き漏らしなどがあることに気づき、ゼミの先生や市役所の担当者から調整をして頂き必要なデータを全て集めていただきました。このフィールドワークに参加し、調査報告をゼミ生でまとめあげた充実感と、市役所の健康

づくり担当課長会議の場で報告できたことで責任を持ってやり遂げることの大切さを実感できました」と話してくれました。

担当教員の高橋和幸准教授は、「フィールドワークでは行政資料の収集はもとより、健康づくり支援の事業に関わる職員の成功体験や苦労話、参加している市民の様子など五感を研ぎ澄ませながら調べる必要があります。今回はそのスキルを高めるための良い機会となったはずです。この研究活動に参加したゼミ生は、ひと回り成長したように感じます」と学生の成長について話しました。

健康の駅とは

■「健康の駅」は、健康なまちづくりをリードする交流拠点（駅）です。

「健康の駅」は、地域住民の健康維持増進を目的として、健康のための活動を行う施設で、集まる人たちが自由に交流できる交流拠点（サロン）です。

健康の駅には人と人とのコミュニケーションで元気になる取り組みがあります。

さらには「健康の駅」同士で協力、連携することを通して、様々な健康増進手法に関わる知識、情報を集積するとともに、健康維持増進に関わる諸活動を実践していきます。

秋田看護福祉大学新学長に田中禮子教授

秋田看護福祉大学前学長佐々木英忠氏の任期満了に伴い、４月から新たに田中禮子教授が学長に就任しました。

田中禮子（たなかれいこ）氏

昭和16年1月生。宮城県出身。東北大学医学部薬学科卒業。

秋田大学医学部助手、秋田大学医学部講師、秋田大学大学院医学研究科指導教官を経て、平成８年から秋田桂城短期大学、平成17年から秋田看護福祉大学看護学科教授。専門は薬理学、健康科学。医学博士。

ゲーテの老年期を作品から読み解く

柴田 翔氏 講演会

4月24日、40周年記念館で、東京大学名誉教授で芥川賞作家の柴田翔氏による特別講演「晩年の奇蹟―ゲーテの老年期」が開催され、一般・学園関係者合わせて約180名が参加しました。

82歳で亡くなったゲーテの人生を青年期からたどり、

代表作を次々に創作した晩年について特に詳しく説明しました。ゲーテは、青年期には「欲することすべてを、今すぐ全部手に入れたいし、手に入れられる」という「青春幻想」をもっていたが、すぐに脱却。ヴァイマルの大臣として秩序に従って生きてきたが、心の中に持ち続けていた「青春幻想」を、老年期になり再び追い求めた様子を、作品を多数引用して解説しました。

最後の質疑応答では、「生活者としてのゲーテについて」「ゲーテを研究することに決めたきっかけ」「ゲーテ博物館について」など、熱心な質問が寄せられ、その一つひとつに、ご自身のエピソードを交えて丁寧に回答しました。

参加者の中には柴田氏の小説の愛読者も多く、会場内では著書を手に感動を語る姿も見られました。

内館牧子氏 講演会

エッセイの書き方を基礎から解説

4月17日、6月1日の2回に渡り、ノースアジア大学40周年記念館271教場で、総合研究センター主催シティカレッジ内館牧子氏講演会が開催されました。

本学での2年振りの講演会は「エッセイを書いてみよう」と題して、参加者が「第三回ノースアジア大学文学賞」へ応募することを目標に行われました。

第1回目は、エッセイを書く上での注意点として、原稿用紙の使い方について説明をしたあと、枕草子を例に挙げて、テーマの選び方について解説。

第2回目は、テーマの絞り方、言葉の使い方、構成の仕方について解説していただきました。

最後の質疑応答では、内館氏がエッセイを書くときに実際に行っていることを披露。

二回とも、エピソードや文例をふんだんに用いて、基本的なことからわかりやすく丁寧にご説明いただきました。また、参加者から事前にアンケートを取った、書きたいエッセイのテーマを元に、具体的な書き方のアドバイスが行われました。

参加者からは、「自分が提出したテーマについてアドバイスがいただけてよかった」「とても勉強になった」「友人にも受講を勧めたい」などの感想が聞かれ、エッセイに対する認識を新たにしたようすでした。

原田優輝さん(レスリング部)が日本高校選抜チームに選出

日中交流大会へ参加

このほど、原田優輝さん（明桜高校3年）が2010年日中交流ジュニアレスリング大会（5月9日から14日まで中国・青島市開催）の高校選抜チームの一員として大会に参加しました。

原田さんは、今年2月に行われた第50回高松宮杯東北高等学校選抜レスリング大会（個人戦84kg級）に優勝し、同年3月の全国選抜大会では3位入賞と、優れた成績を挙げています。

大会に参加した原田さんは、「海外での試合は、今回が初めての経験です。この交流大会での成績は、3試合に出場して1勝2敗。中国の大学3位になった選手との試合もあり、自分の強化すべき点もこの大会を通して見つかりました。試合を通して受けたレスリングの印象は、日本はスポーツで、中国は格闘技に近い感じでした。また、中国の選手からは、何が何でも勝つという気持ちを前面に出し、試合に臨む気迫が伝わってきました」と大会を通じて感じたことを話してくれました。

充実する幼稚園教育

論語・英語教室で園児たちの知的好奇心に働きかける

論語を教えています

ー先生たちによる論語劇で楽しむ園児ー

このほどのびのび幼稚園の先生たちによる「論語劇」が行われました。

この劇は、論語の学習を通して人に対する思いやりの心をもつことや、子どもたちが成長し、変化が大きい社会の中でも心が折れずに自分で考えて行動できるようになることなどを目的として今年から全園児を対象に行われます。

第１回目は「徳は孤ならず必ず隣有り（とくはこならず、かならずとなりあり）」の言葉を分かりやすい内容で伝えました。

みんなで復唱したよ
「徳は孤ならず、 必ず隣有り。」

この意味は「わかり合える仲間は、きっといる」ということ。

職員による劇：「足痛いの？大丈夫」
「絆創膏貼ってあげるね」

劇が終わった後には、参加した全園児が取り上げた言葉を声に出して読みました。中には、スラスラと読んで、午後にはもう覚えてしまう園児もいました。今回の言葉は、同園の遊戯室に大きな字で掲示しており、園児たちがいつでも読むことができます。また、遊戯室への掲示だけに留まらず、担任の先生による読み聞かせや興味を持った園児たちが絵本をいつでも読めるように、年長組から年少組の各教室へ絵本セットを用意しています。

論語劇は、今後も月に１回開催する予定で、取り上げた言葉は、随時遊戯室に掲示します。

体を動かして英語をおぼえよう

ーのびのび幼稚園で英語教室ー

今年度も、のびのび幼稚園で年長組を対象に、英語教室が始まりました。今年は、明桜高校で英語の授業を担当している、スコットランド出身のソーフィン・テイト先生が講師です。

おさるさんに変身！

先生、また英語を教えてね

みんな真剣に発音を聞きます

園児たちは、先生の話す英語をしっかりと聞いて復唱しました。先生やみんなと一緒に動物の動作や鳴き声を真似て体を動かし、遊びの中で一つひとつ覚えていきます。約40分の授業はあっという間にすぎ、先生からの「楽しかった人！」の問いかけに、みんな元気良く「ハイ」と答えました。ソーフィン先生は、「子供の頃から外国人と接し、英語に親しむことで、発音がしっかり身に付く。楽しく学びながら、英語を生活の一部として感じて欲しい」と話しました。

この取り組みは、10月まで毎月１回～２回、年長組を対象に行われます。

平成21年度決算

平成21年度決算は、5月29日の理事会、評議員会において承認されました。

平成21年度において学園では、「教育の質の向上」、「学習意欲の喚起」、「学生・生徒の学習と生活支援の充実」を柱として各種の改革を行いました。

大学・高校教員の任期制・成果給制度の導入および、学生による授業評価や教職員による講義内容の研究・研修などを実施したことにより、教育内容の品質保証と環境の整備が促進され、学生・生徒の教育に着実な成果をあげることができました。

また、海外との文化や経済交流が活性化するなか、ノースアジア大学法学部観光学科では、学生を企画主体とした韓国交流旅行を実施するなど、新たな事業への取り組みも行いました。この事業には秋田県からの特別補助が交付されています。

学生のキャリア教育についても、キャリアセンターを中心に入学時から卒業後の進路を見据えた教育の支援体制を整備し、学生の志望に合わせた行政、司法、税務会計、観光の各研究室を整備し、専門知識の習得に対応した専門員の配置や、各種試験の受験対策に配慮しました。

総合研究センターでは地域との交流や研究教育の中核機関として、教育研究資源を広く市民に開放し、専門知識や広い視野を身につける教育のサービスを提供しております。平成20年度より開催した『ノースアジア大学文学賞』も社会に貢献する新たな取り組みとして好評を得ています。

高校では、進学に対応した土曜日の授業実施など、カリキュラムを見直し、生徒の学力向上に向けた各種の対策を実施しました。

幼稚園においては、さくら幼稚園が入園希望者の増加により申込受付日に定員となるなど、地域において需要度の高い幼稚園となっており、またのびのび幼稚園については、食育・論語・英語教室など多彩な教育を実施、さらに併設の保育園が認定をうけたことにより幼・保一体型施設としての利便性を充実できるものと期待しています。

〔平成21年度決算概要〕

収入については、帰属収入が3,382,409（千円）となり、基本金組入額を差し引いた消費収入合計額は、3,364,487（千円）となりました。

これに対して支出は、教育研究活動の経費に配慮しつつ、施設・設備に関する経費を大幅に削減するとともに、物品の購入経費等を抑制することにより、3,233,143（千円）となり、131,343（千円）の収入超過となりました。翌年度繰越消費収入超過額は1,612,770（千円）となりました。

平成21年度資金収支計算書

収入の部

（単位：千円）

科目	予算	決算	増(△)減
学生生徒等納付金収入	1,814,300	1,896,151	△ 81,851
手数料収入	33,213	35,811	△ 2,598
寄付金収入	26,771	26,770	1
補助金収入	810,799	795,974	14,825
資産運用収入	70,336	84,879	△ 14,543
資産売却収入	300,000	450,000	△ 150,000
事業収入	213,460	268,005	△ 54,545
雑収入	61,058	272,787	△ 211,729
前受金収入	402,000	455,971	△ 53,971
その他の収入	412,916	700,399	△ 287,483
資金収入調整勘定	△ 482,781	△ 620,543	137,762
前年度繰越支払収入	3,090,000	3,089,124	876
資金収入の部合計	**6,752,072**	**7,455,333**	**△ 703,256**

支出の部

（単位：千円）

科目	予算	決算	増(△)減
人件費支出	2,135,780	1,886,816	248,964
教育研究経費支出	761,510	527,050	234,460
管理経費支出	239,481	343,395	△ 103,914
施設関係支出	13,650	13,650	0
設備関係支出	17,882	17,429	453
資産運用支出	634,900	634,900	0
その他の支出	470,797	750,416	△ 279,619
〔予備費〕	0	0	0
資金支出調整勘定	0	△ 305,018	305,018
次年度繰越支払資金	2,478,072	3,586,693	△ 1,108,621
資金支出の部合計	**6,752,072**	**7,455,333**	**△ 703,261**

＜千円未満切り捨て＞

平成21年度消費収支計算書

（単位：千円）

科目	予算	決算	増(△)減
学生生徒等納付金	1,814,300	1,896,151	△ 81,851
手数料	33,213	35,811	△ 2,598
寄付金	26,771	28,799	△ 2,028
補助金	810,799	795,974	14,824
資産運用収入	70,336	84,879	△ 14,543
事業収入	213,460	268,005	△ 54,545
雑収入	61,058	272,787	△ 211,729
帰属収入合計	3,029,937	3,382,409	△ 352,472
基本金組入額合計	△ 334,000	△ 17,922	△ 316,077
消費収入の部合計	**2,695,937**	**3,364,487**	**△ 668,550**

（単位：千円）

科目	予算	決算	増（△）減
人件費	2,135,780	1,838,257	397,522
教育研究経費	1,252,301	1,012,289	240,011
管理経費	257,883	367,424	△ 109,541
資産処分差額	0	8,389	△ 8,389
徴収不能額	10,000	6,782	3,217
〔予備費〕	0	0	0
消費収支の部合計	**3,655,964**	**3,233,143**	**422,820**
当年度消費収入超過額	0	131,343	
当年度消費支出超過額	960,027	0	
前年度繰越消費収入超過額	347,904	1,481,426	
翌年度繰越消費収入超過額	0	1,612,770	
翌年度繰越消費支出超過額	612,123	0	

＜千円未満切り捨て＞

平成21年度貸借対照表

（単位：千円）

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増(△)減
固定資産	23,582,159	24,000,081	△ 417,922
有形固定資産	12,475,741	12,958,586	△ 482,845
その他の固定資産	11,106,418	11,041,495	64,923
流動資産	3,860,711	3,396,168	464,543
資産の部合計	**27,442,871**	**27,396,250**	**46,621**

（単位：千円）

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増(△)減
固定負債	179,411	227,970	△48,559
流動負債	890,279	944,364	△54,085
負債の部合計	1,069,690	1,172,335	△102,644
基本金の部			
第１号基本金	22,703,936	22,686,014	17,922
第２号基本金	900,000	900,000	0
第３号基本金	761,473	761,473	0
第４号基本金	395,000	395,000	0
基本金の部合計	24,760,410	24,742,488	17,922
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入超過額	1,612,770	1,481,426	131,344
消費収支差額の部合計	1,612,770	1,481,426	131,344
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	27,442,871	27,396,250	46,621

＜千円未満切り捨て＞

平成22年度予算

平成22年度予算は、３月30日の理事会、評議員会において承認されました。これによると平成22年度の資金収支予算は総額5,711,366（千円）となりました。

〔平成22年度予算概要〕

大学を取り巻く環境の変化に対応しながら、教育環境の充実に向けた取り組みを一層強化し、学生・生徒の健全育成に努めることを目的とした予算編成に配慮しました。

また基盤である学納金収入確保のための施策を充実させるとともに、全学をあげて経営の健全化に努めることに重点をおきました。

支出については、経常経費の見直しを行なうと共に、本学園の評価向上や、地域貢献に繋がる事業、公務員試験や各種資格試験対策の充実、シティカレッジ、観光学科の充実、地域連携事業の促進等の教育活動に重点を置いた予算編成としています。

＜平成22年度資金収支予算書＞

収入の部　（単位：千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金収入	1,857,321	2,046,892	△ 189,571
手数料収入	20,284	19,949	335
寄付金収入	0	0	0
補助金収入	629,540	845,251	△ 215,711
資産運用収入	45,389	65,889	△ 20,500
事業収入	203,893	229,845	△ 25,952
雑収入	98,980	98,980	0
前受金収入	179,859	438,763	△ 258,904
その他の収入	237,850	268,500	△ 30,650
資金収入調整勘定	△ 470,000	△ 535,980	65,980
前年度繰越支払資金	2,908,250	3,147,359	△ 239,109
資金収入の部合計	5,711,366	6,625,448	△ 914,082

支出の部　（単位：千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費支出	1,739,020	2,026,016	△ 286,996
教育研究経費支出	693,500	815,580	△ 122,080
管理経費支出	174,864	199,287	△ 24,423
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	22,127	24,143	△ 2,016
資産運用支出	184,000	260,000	△ 76,000
その他の支出	480,915	613,172	△ 132,257
〔予備費〕	30,000	30,000	0
資金支出調整勘定	△ 400,000	△ 251,000	△ 149,000
次年度繰越支払資金	2,786,940	2,908,250	△ 121,310
資金支出の部合計	5,711,366	6,625,448	△ 914,082

＜平成22年度消費収支予算書＞

収入の部　（単位：千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
学生生徒等納付金	1,857,321	2,046,892	△ 189,571
手数料	20,284	19,949	335
寄付金	0	0	0
補助金	629,540	845,251	△ 215,711
資産運用収入	45,389	65,889	△ 20,500
事業収入	203,893	229,845	△ 25,952
雑収入	98,980	98,980	0
帰属収入合計	2,855,407	3,306,806	△ 451,399
基本金組入額合計	△ 184,000	△ 23,000	△ 161,000
消費収入の部合計	2,671,407	3,283,806	△ 612,399

支出の部　（単位：千円）

科　目	本年度予算	前年度予算	増(△)減
人件費	1,739,020	2,026,016	△ 286,996
教育研究経費	1,176,500	1,333,380	△ 156,880
管理経費	193,564	220,847	△ 27,283
資産処分差額	500	0	500
徴収不能額	10,000	10,000	0
〔予備費〕	30,000	30,000	0
消費収支の部合計	3,149,584	3,620,243	△ 470,659
当年度消費支出超過額	478,177	336,437	
前年度繰越消費収入超過額	11,467	347,904	
翌年度繰越消費収入超過額	0	11,467	
翌年度繰越消費支出超過額	466,710	0	

野生動物を通して人間の生活を考える

シンポジウム「生態文学」を開催

５月22日、ノースアジア大学40周年記念館３階講堂において、秋田魁新報社・日本ペンクラブ主催、ノースアジア大学特別協賛のシンポジウム「生態文学」が開催されました。

作家の西木正明氏の司会により、中国側４人、日本側３人のパネリストが、野生動物の現状と環境問題について話し合いました。

はじめに、小泉理事長の「このシンポジウムが社会に対する警鐘を鳴らすきっかけになって欲しい」との挨拶で開会し、大森山動物園園長の小松守氏が動物の絶滅の現状について説明しました。

中国からは４人の作家が参加し、出身地の自然や経済状況を紹介しながら、幼少期の動物との関わりについて話しました。

朱暁平（シュ シャオピン）氏が、「環境を犠牲にした目先の経済発展は、環境だけでなく、歴史や文化も破壊している。これまで文学は人間中心であったが、これからは全ての生物を含む生態系を中心にすべきだ」と訴え、邱華棟（キュ ファドン）氏は、出身地の新疆ウイグル自治区での経験を元に、「動物にとっては、人間と生活するより自然の中で生活したほうが良いのではないかと思う。人間中心の文学は、自然を中心の文学に切り替えるべきだ」と語りました。

日本側からは、映画監督の岩崎雅典氏が阿仁のマタギの熊猟をはじめ、様々な野生動物を撮影した経験に基づいたエピソードを披露し、青森大学教授の見城美枝子氏が、児童文学からみた人間と自然との関わりについて話しました。

最後に、生物の多様性や環境の保全についての意識を見直し、変えていくことが今後の重要なテーマであることを確認し合いました。

第3回　ノースアジア大学文学賞

応募要項

【応募締切】2010年９月８日（水）
【発　　表】2010年11月上旬
文学賞授賞式

● 選考委員

内館牧子 氏
脚本家・ノースアジア大学
教育諮問会議委員・客員教授

石川　好 氏
ノンフィクション作家・評論家
ノースアジア大学客員教授

小泉　健 氏
学校法人ノースアジア大学理事長・学長

橋元志保 氏
ノースアジア大学教養部准教授
本学教養・文化研究所長

第１回文学賞は204作品、第２回文学賞は270作品と、全国からたくさんのご応募をいただきました。
皆様のご応募をお待ちしております。

お問い合わせは
総合研究センター
TEL 018－836－6592

部　門	Ⅰ　高校生の部門　(1)　エッセイ（自由作品）の部 (2)　短編小説の部 Ⅱ　大学生・一般の部門　(1)　エッセイ（自由作品）の部 ※短編小説の部は、高校生のみの募集となります。
応募内容	高校生の部門及び大学生・一般の部門において、広くエッセイを公募いたします。テーマ及び形式は自由です。なお、エッセイには、随筆・評論を含みます。また高校生の部門のみ、「短編小説の部」を設けました。
応募規定	応募枚数は、高校生の部門、大学生・一般の部門共に400字詰め原稿用紙５～10枚です。なお応募はオリジナルで、未発表の作品に限ります。 (1)　表紙または、１枚目冒頭にタイトルと氏名を必ず明記してください。原稿用紙は縦書きで使用してください。ワープロ原稿の場合は、40字×30行で印字してください。（どちらの場合もホチキス、綴りひも等で１冊に綴じて提出してください。） (2)　住所、氏名、電話番号、年齢、職業、略歴を明記した別紙を添付し、ノースアジア大学総合研究センターまでご郵送ください。（出来れば応募要項に添付された用紙を使用してください。） (3)　お一人一作品の応募に限ります。複数の応募は認められません。
応募資格	アマチュアに限ります。年齢、学歴等は不問です。
賞	Ⅰ　高校生の部門　◎最優秀賞…賞状と記念品（５万円相当の旅行券） ◎優秀賞…賞状と記念品（３万円相当の旅行券） ◎学校賞…賞状と記念品 Ⅱ　大学生・一般の部門　◎最優秀賞…賞状と記念品（５万円相当の旅行券） ◎優秀賞…賞状と記念品（３万円相当の旅行券）

パソコン・携帯から学園の情報を入手できます

ノースアジア大学メールマガジン 登録申し込み受付中

学園行事やキャンパスの様子など、学園の最新情報を、パソコンや携帯のメールアドレスにお届けしている「ノースアジア大学メールマガジン」。パソコン・携帯のどちらでも登録できます。

配信申込・停止は随時受付しております。どなたでも登録できますので、お気軽にお申込下さい。

メールマガジン配信をご希望の方は、本文に氏名を記入の上、下記アドレスまで E-mail をお送り下さい。

なお、標題（Subject）には「メールマガジン配信希望」とご記入下さい。

koho@nau.ac.jp
（登録専用アドレス）

※ご注意下さい…携帯電話で登録される方は、ご自身の携帯電話のメール受信の設定によっては、メールマガジンの配信を受けられないことがあります。また、登録時に記入漏れがあった場合にも、メールマガジンを配信できないことがありますのであらかじめご了承願います。
※ご記入いただいた情報は、メールマガジン送付のために使用し、その他の目的には使用しません。

お問い合わせは
学校法人ノースアジア大学　理事長総室広報担当
TEL 018－836－6527　　E-mail:koho@nau.ac.jp

第6回 ノースアジア大学 ウインドオーケストラコンサート

ノースアジア大学吹奏楽団、明桜高等学校吹奏楽部の合同演奏会「ウインドオーケストラ・コンサート」を開催します。

ゲストに秋田吹奏楽団音楽監督の佐藤正人氏、テノール歌手の小林彰英氏、ピアニストの腰塚賢二氏をお迎えし、クラシックから映画音楽まで、幅広いジャンルから選曲して演奏します。

総合研究センターへお申し込みの上、是非ご来場下さい。

【日時】平成21年７月23日（金）
17：30 開場　18：00～20：30
【会場】秋田市文化会館　大ホール

お申し込み・お問い合わせは
ノースアジア大学総合研究センター
TEL 018-836-6592

2010年春の叙勲で本学教員が受章

瑞宝中綬章　古田重明 氏
ノースアジア大学法学部名誉教授

平成22年７月９日　編集・発行　理事長総室　〒010-8515 秋田市下北手桜守沢46-1　Tel. 018-836-6527 Fax. 018-836-3321 URL. http://www.nau.ac.jp/houjin